

認知症サポーターであふれるまちをつくらう

認知症サポーター

認知症サポーターは、養成講座を受け、認知症を正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る応援者です。認知症サポーターになった後は、家族や友人に知識を伝えたり、地域で、声かけをしたり、簡単な手助けをしたりするなど、支援の方法は人それぞれです。

認知症サポーターには、認知症を支援する目印として、プレスレット（オレンジリング）を身につけるようにお願いしています。紹介福祉課では、認知症サポーターを養成する講座を、自治会や企業、学校などで開催しています。講座の講師をキャラバンメイトと呼び、彦根市では41人のキャラバンメイトが活動しております。講座の開催を希望する団体があれば、気軽にご連絡ください。



▲認知症サポーターが手首につけるオレンジリング

早めの相談と受診が一番の特効薬です

認知症は、発症原因となる病気があります。病気によっては、医療機関で治療を受けることで治ったり、病気の進行を遅らせることもできます。どんな病気でもそうであるように、認知症も、早めに医療機関を受診することが大切です。

早期に受診し、適切な治療を受ければ、治る可能性が高まるだけでなく、病気について説明を受けることもできます。認知症の人が、自分が認知症にかかっていることを理解できれば、治療をスムーズに進めることができます。さらに、本人だけでなく、家族も認知症に対して心構えができ、その後のケアにもなう負担も軽減することができます。

次に、認知症の人の家族は、悩みを抱え込まずに相談することが大切です。下の表で、相談窓口や家族の会を紹介します。各学区ごとにある相談窓口では、現在、認知症で悩んでいる人だけでなく、認知症かもしれないという初期の段階でも相談に応じています。少しでも、おかしいと感じたら、かかりつけ医や、相談窓口にご相談しましょう。

認知症に関する相談窓口

学区	担当の在宅介護支援センター	所在地	連絡先
鳥居本	とりいもと	鳥居本町670 (デイサービスセンター鈴の音内)	☎21-5412 FAX21-5464
城東・佐和山	地域包括支援センター*	平田町670 (福祉保健センター内)	☎23-9632 FAX26-1768
城西・城北	ハピネス	馬場一丁目5-5 (ハピネスひこね内)	☎27-6702 FAX21-0302
金城・平田	ふるさと	開出今町1343-3 (近江第二ふるさと園内)	☎22-1121 FAX22-1183
城南・高宮 旭森	ゆうじん	竹ヶ鼻町80 (アロフェンテ彦根内)	☎21-3305 FAX21-3306
城陽・若葉 河瀬・亀山	きらら	川瀬馬場町1015-1 (彦根市デイサービスセンターきらら内)	☎28-9323 FAX28-9322
稲枝東・稲枝北 稲枝西	いなえ	田原町13-2 (南老人福祉センター内)	☎43-7616 FAX43-6711

※地域包括支援センターは、「城東・佐和山学区」以外に、すべての学区からの相談にも応じています。

家族のつどい「ほっこり」

現在介護をしている人から、介護を終えた人までが集まる家族の会です。介護の経験談や、に今悩んでいることなどを、お互いに話し合っています。参加者のなかには、認知症の介護を経験した人も多くいます。気軽にご参加ください。

開催日	時間	場所
10月19日(火)、11月13日(火) 12月11日(火) ※各月の開催日については、「広報ひこね」毎月1日号の「催し物」欄でお知らせします。	13:30~15:30	福祉保健センター2階 (平田町670)



問い合わせ先
地域包括支援センター
☎23-9632、
FAX26-1768

認知症の人とその家族を地域で支える



認知症の人と、その家族を支えるためには、地域の協力が重要です。日常的に認知症の人を見守ったり、家族に一言ねぎらいの言葉をかけたりするだけでも、大きな支えになります。そういった日常の見守りが、認知症の人が徘徊したときや、悪質な訪問販売業者が出入りしているなど、いつもと様子が違うと感じたときに具体的な手助けの行動につながり、地域全体で認知症の人を支えることができるのです。

認知症サポーターをそれぞれの地域でたくさん増やすことが、お互いに助け合い、認知症の人とその家族が安心して暮らせるまちづくりの第一歩になります。

地域の協力が、介護を助ける

林 登喜子さん(日夏町)



以前に認知症の母親を介護していたときに、地域の人たちが大変お世話になりました。その恩返しに気持ちから、家族会の立ち上げに関わるなどのボランティア活動をしていました。その経験を少しでも生かさないかと思い、キャラバン・メイトになりました。

認知症については、啓発活動が進み、私が介護していたときと比べ、世間の理解も得られるようになったと思います。しかし、一方で、家族に認知症の人がいる場合、そのことを隠したいと思う人も、まだまだおられるようです。

人を抱え込まずに、早めに相談に行くことです。相談することで、介護者自身も楽になります。

2つ目は、認知症についての理解を深めることです。私も初めは、全然分かりませんでした。治療の可能性が高まることもあるし、介護の仕方を知ることがあります。

最後は、できるだけ地域の人が知ってもらうことです。介護をしていることを地域に知ってもらい、地域とともに介護をしていくことが大切です。